

令和五年度採用 中学校専門 国語

志願種別	
受験番号	

二 次の文章を読んで、後の【二一】～【二五】の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

【一】 本文中の—— a ～ c の片仮名を漢字に改め、これと同じ漢字を用いた語句の組合せとして正しいものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

a {
 ア 山中にカンキヨする
 イ カントウゲンを読む
 ウ カンコツ奪胎させる

b {
 ア 彼には基礎シツカンがある
 イ 事務所の後輩をシツタする
 ウ シツコウの闇が満ちわたる

c {
 ア 試合のヨインが冷めない
 イ 彼女とはインネンがある
 ウ 私はリユウインを下げた

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ア | b | ウ | c | ア |
| ② | a | ア | b | イ | c | イ |
| ③ | a | イ | b | イ | c | ウ |
| ④ | a | イ | b | ア | c | イ |
| ⑤ | a | ウ | b | ア | c | ウ |

【二】 本文中の ア ～ エ に入る言葉の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|-----|
| ① | ア | また | イ | あるいは | ウ | さらに | エ | だから |
| ② | ア | また | イ | つまり | ウ | それゆえ | エ | だから |
| ③ | ア | また | イ | つまり | ウ | さらに | エ | しかし |
| ④ | ア | そのため | イ | つまり | ウ | それゆえ | エ | しかし |
| ⑤ | ア | そのため | イ | あるいは | ウ | さらに | エ | だから |

【一三】 (A) (B) にそれぞれ入る言葉の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① (A) 公 ・ (B) 私 ② (A) 人民 ・ (B) 公
③ (A) 私 ・ (B) 人民 ④ (A) 私 ・ (B) 公
⑤ (A) 公 ・ (B) 人民

【一四】 本文中の「面倒な行爲」とあるが、この説明として適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 理性に尋ねて考えを形成したり変えたりすること
② 個人が特殊的な私の次元から一般的な公の次元へ思考を移すこと
③ 自分も他人も同じようなものとして、熟議的理性を行使すること
④ 意志を一般化して、ともに必要とする社会基盤は何かを探ること
⑤ 他者と人間としての共通点を見付け、それを尊重しようとする事

【一五】 次のア～オについて、本文に書かれている内容の組合せとして適切なものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

- ア 「社会契約論」は、人民主権の原理を突き詰めて追究した人間同士が自由社会を設立するプロセスを抜け出す可能性を探る、ポジティブな著作である。
イ 奴隷状態とは、奴隷がその状態に飼い馴らされているか、暴力にやむなく従っているだけであり、奴隷として服従する義務を遂行しているだけである。
ウ 社会契約とは、人間が自由にいられる社会を築くための手段であり、当事者を含む共同体にすべての権利を渡して行われる完全に対等な契約である。
エ 一般意志とは、個々の人間が自らの特殊性をいったん離れて、自分を含む多様な人間がともに必要とするものは何かを探ろうとする意志を一般化したものである。
オ 公的領域においては理性の行使が要請され、その行使を通じて各個人で共同体を運営することが、将来的な自己利益の追求にもつながっていく。

- ① ア・イ ② ウ・エ ③ ア・オ ④ イ・エ ⑤ ウ・オ

三

【一六】 ことわざや慣用句について、()内にその本来の意味が示されているものとして誤っているものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 雨後の筍 (似たようなものが次々に現れること)
- ② 木に竹をつぐ (違うものでうまくつなげること)
- ③ 立て板に水 (よどみなくすらすらと話すこと)
- ④ 梨のつぼて (返事や連絡がないこと)
- ⑤ 情けは人のためならず (人に親切にしておけばいつかは自分に良い報いが廻って来ること)

三

【一七】 次のA～Eについて、作者とその作者が書いた作品の組合せとして正しいものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

- A 【作者名】芥川龍之介 【作品名】羅生門 或日の大石内蔵助 蜘蛛の糸
- B 【作者名】川端康成 【作品名】伊豆の踊子 旅愁 雪国
- C 【作者名】島崎藤村 【作品名】破戒 春 夜明け前
- D 【作者名】井原西鶴 【作品名】日本永代蔵 世間胸算用 雨月物語
- E 【作者名】松尾芭蕉 【作品名】野ざらし紀行 笈の小文 嵯峨日記

- ① A A B D
- ② A A C E
- ③ B B C D E
- ④ C B D E E
- ⑤ C D E E

四 「中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 国語編(平成二十九年七月 文部科学省)」に示されている内容について、次の【一八】【一九】の問いに答えよ。

【一八】 次は、「第一章 総説 二 国語科の改訂の趣旨及び要点 (二)目標及び内容の構成」の一部である。A～Eに入る言葉を【語群】a～jから選択し、その正しい組合せを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、A上で共に必要となる資質・能力である。したがって、A際には、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの「思考力、判断力、表現力等」のみならず、B、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する「知識及び技能」が必要となる。このため、今回の改訂では、資質・能力の三つの柱に沿った整理を踏まえ、従前の3領域1事項の内容のうち、Aために必要な「知識及び技能」を「知識及び技能」として明示した。

この「知識及び技能」に示されているBなどの「知識及び技能」は、個別の事実的な知識や一定の手順のこのみを指しているのではない。国語で理解したり表現したりする様々な場面の中でC「知識及び技能」として身に付けるために、Dを通じて育成を図ることが求められるなど、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、E育成される必要がある。

- 【語群】
- a 国語を適切に表現し正確に理解する
 - b 国語で正確に理解し適切に表現する
 - c 言葉の特徴や使い方
 - d 言葉の特徴やきまり
 - e 適切に使う
 - f 生きて働く
 - g 思考・判断し表現すること
 - h 自分の考えなどを形成すること
 - i 相互に関連し合いながら
 - j 螺旋的・反復的に繰り返しながら

- ① A A b B B c C C e D D h E E j
- ② A A b B B d C C e D D g E E j
- ③ A A a B B c C C f D D h E E i
- ④ A A a B B d C C e D D h E E i
- ⑤ A b B c C f D g E i

【一九】 次は、「第二章 国語科の目標及び内容 第二節 国語科の内容 二〔知識及び技能〕の内容」の一部である。A～Eに入る言葉を【語群】 a～jから選択し、その正しい組合せを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成やAの重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。

語句の量を増すことに関しては、第一学年では、B語句の量を増し、第二学年では、C語句の量を増しとするなど、各学年において、指導する語句のまとまりを示している。これらは、あくまでも指導の重点とする語句の目安を示したものであり、これ以外の語句の指導を妨げるものではない。重点として示された語句のまとまりを中心としながら、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げることが重要である。また、第三学年では、D語句の量を増しとし、義務教育修了段階として、全ての語句を対象に指導することを示している。

語句についての理解を深めることについては、第一学年では、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意すること、第二学年では、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解すること、第三学年では、慣用句や四字熟語などについて理解を深めること、和語、漢語、外来語などを使い分けることを示している。

こうした語句を話や文章の中で使うことを通して、Eの中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要である。

【語群】

- a 言語感覚を豊かにするため
- b 学習の基盤となる言語能力
- c 事象や行為、心情を表す
- d 事実や情報、考えや意図を伝える
- e 思考に関わる
- f 抽象的な概念を表す
- g 理解したり表現したりするために必要な
- h ものの見方や考え方を形成するために必要な
- i 社会生活
- j 日常生活

- ① A A a B B c C C e D D g E E j
- ② A A b B B d C C e D D h E E i
- ③ A A b B B c C C f e D D g E E i i
- ④ A A b B B d C C e f e D D g E E j
- ⑤ A a B d C f D h E i

【五】 次の文章は、菅原孝標女が記したとされる「更級日記」の一節である。これを読んで、後の【二〇】～【二四】の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

【二〇】 A と B に入る語句として文法上適切な組合せを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① A こひしき B め
- ② A こひしき B む
- ③ A こひしく B め
- ④ A こひしく B む
- ⑤ A こひしけれ B め

【二一】 —ア「いひ知らずをかしげに、めでたく書き給へるを見て、いと涙を添くまざる」とあるが、その解釈として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 言いようもなく美しく見事にお書きになってあるのを見て、いよいよ涙が込み上げてあふれる。
- ② 言いようもなく面白く見事にお書きになってあるのを見て、おもわず涙が込み上げてあふれる。
- ③ (歌の)詠み手を知らないことも情があり見事にお書きになってあるのを見て、おもわず涙が込み上げてあふれる。
- ④ (歌の)詠み手を知らないことは情けないが見事にお書きになってあるのを見て、いよいよ涙が込み上げてあふれる。
- ⑤ (歌の)詠み手は知らないが美しく見事にお書きになってあるのを見て、おもわず涙が込み上げてあふれる。

【二二】 —イ「後のくらゐも何にかはせむ」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 菅原孝標女にとって、乳母の死が悲しいことだったから。
- ② 菅原孝標女にとって、おばに会えたことが嬉しかったから。
- ③ 菅原孝標女にとって、後の位になることが憧れだったから。
- ④ 菅原孝標女にとって、源氏物語がずっと読みたい物語だったから。
- ⑤ 菅原孝標女にとって、贅沢なくらしをすることが憧れだったから。

【二三】 この文章中の出来事の解釈として適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選ぶ。

- ① 菅原孝標女が、ふさぎこんでばかりいたので、母は、慰めようと物語などを探し出して見せた。
- ② 菅原孝標女は、上京してきた時、手本にするようにと侍従姫君の御筆跡をもらった。
- ③ 菅原孝標女は、夢の中で、とても清らかな感じの坊さんで、黄色い袈裟を着ている人から、「法華経第五巻を早く習いなさい」と言われた。
- ④ 菅原孝標女が、ひどく泣き通して外を見ていると、夕日が華やかにさしているところに、桜の花がいつせいに散り乱れていた。
- ⑤ おばは、菅原孝標女のことをかわいそうに思い、思い出のつまった源氏物語などの物語を、木簡や袋に入れて隠した。

【二四】 例のように、古典文学作品をジャンルと作品名で示すとき、組合せとして誤っているものを、後の①～⑤の中から一つ選ぶ。

(ジャンルと作品名で示した例)

日記 … 更級日記 蜻蛉日記

- ① 随筆 … 枕草子 玉勝間
- ② 軍記物語 … 保元物語 明月記
- ③ 浄瑠璃 … 曾根崎心中 菅原伝授手習鑑
- ④ 歌集 … 万葉集 新古今和歌集
- ⑤ 説話 … 今昔物語集 宇治拾遺物語

【二五】 書写の指導において、適切なものの組合せを、「中学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 国語編（平成二十九年七月 文部科学省）」の指導事項に基づきながら、後の①～⑤の中から一つ選べ。

- A 毛筆の指導では、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くことができるよう指導する。
- B 毛筆の指導では、個性を伸ばすために字形、文字の大きさ、配列などを指導せず、のびのびと書かせる。
- C 行書の指導では、丁寧な字を書く必要があるため、一字一字ゆっくり時間をかけて書きあげるよう指導する。
- D 行書の指導では、速く滑らかに書くために点画の方向や形が楷書と同じであることを理解させる。
- E 書写の指導では、身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことを教える。

- ① A・B
- ② A・E
- ③ B・D
- ④ C・D
- ⑤ C・E

令和5年度採用 解答表（中学校・国語）

問題	【11】	【12】	【13】	【14】	【15】	【16】	【17】
正解	④	②	①	③	②	②	②

問題	【18】	【19】	【20】	【21】	【22】	【23】	【24】
正解	⑤	③	①	①	④	⑤	②

問題	【25】
正解	②